



ハイライト:

- 平成21年度卒業生による東小、西小交流事業が開催される
- 広報PR用看板が設置される(諏訪町アーケード・黒沢尻東小学校)
- 東小卒業式、北上中入学式において交流事業で作成した幕が飾られる
- 50周年シンボルマークが決定

お願い:

- 1.絆募金(企業協賛)へのご協力をお願いします。
- 2.50周年記念誌の購入をお願い致します。また、卒業生各学年で記念誌の販売推進にご協力頂ける方を募集しています。下記連絡先までお申し出下

- 3.記念祝賀会にご出席頂ける方を募集致しております。

連絡先:

黒沢尻東小学校
副校長：照井睦子
TEL 6 3-2 1 9 4
FAX 6 4-4 1 9 0

50周年シンボルマークが決定

今回の創立50周年のテーマは絆です。歴代の教職員や保護者そして地域の皆様のお力により、この度50周年を迎えることが出来たことに感謝し、今までの50年間を振り返ると共に、今後の50年への新たな誓いの機会としたいと考え、このテーマを選びました。そこで、なかなか直接この50周年事業に関わることのできない児童に対し、先ずは本年度黒沢尻東小が創立50周年だということを意識付けするためにも、今回黒沢



尻東小の児童に対して、50周年シンボルマークの募集事業を行いました。この企画に対して、37名の児童からの応募があり厳正な選考の結果、5年生の高橋玲未奈さんの作品が見事最優秀賞に選ばれました。今後、このシンボルマークを活用しながら創立50周年事業を展開して参りたいと思います。

その他、優秀賞には6年岩渕大成さん、3年佐藤大紀さんの作品が選ばれたことも併せてご報告致します。ご参加、ご協力頂いた皆様本当にありがとうございました。



東小・西小交流事業で作成した幕

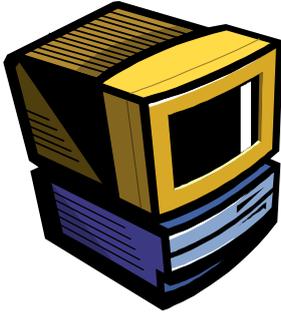
高橋玲未奈さんは、作品の製作意図を「皆の心や気持ちをつないだり、あく手したりして、これからも前に向かって行きたいな」と感じこのシンボルマークを考えた」と述べています。

雑感 ずいぶん早い段階から50周年記念事業の準備を進めていたような気がしますが、早いもので既に新年度を迎え、式典・祝賀会開催まで約半年を残すのみとなりました。各会議ではこの周年事業をよりよいものにし、多くの成果を収めようと何度となく議論を重ね、事業の骨格がようやく固まって参りました。これからは、地域の皆様や企業の方々に対し、募金や協賛金の依頼等も行いながら事業の推進を図って参ります。今回の回覧板にも、絆募金への協力をお願い文書や趣意書が折り込まれています。是非ご一読頂き50周年記念事業が成功裏に開催できますようご協力の程お願い申し上げます。なお、5月中旬～6月中旬の期間に東小PTA会員が直接各家庭や企業を訪問し、絆募金の協力・企業協賛のお願いや、記念誌購入のお願い等をして参りますので何卒ご協力の程お願い申し上げます。

(H. O)



諏訪町アーケード内のPR用横断幕



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

黒沢尻東小学校は昭和35年4月1日(1960年)、前身の黒沢尻小学校から分離開校し現在地に創立されました。以来、兄弟校黒沢尻西小学校と共に北上市のセンター校として「自主」「創造」を校是とし、「強く、賢く、美しく」を学校目標に掲げながら半世紀の歴史を刻み今日に至りました。本校卒業生は約7000名余に達しており、北上市をはじめ県内外はもとより、様々な分野において地域づくり、国づくりに尽力する人材を多く輩出して来ました。今回、50周年という歴史の節目を迎えるときに、わたし達黒沢尻東小として、ここまでに至る地域の皆様方、関係機関の皆様方の支えを感じとり、節目だ

からこそこれに深い感謝をする時と考えるものです。それは、50年という昭和から平成の激動の歴史を振り返った時に、そこに生かされ、大切にされている地域の小学校という至福に対し、感謝を表したいのであります。あわせて、これまでの感謝にとどまらず、今後地域や、まちづくりの核の一つとなるべく、より良い教育環境の創造、人材育成、地域への貢献を再確認し継承する節目の事業と位置付け実施するものであります。今までの、「半世紀の歩みに対する感謝・東小の役割のふりかえり」、そして「これからの50年の役割の確認と誓い」の事業と位置づけ

「印象に残るような文章を
読者の目を引くよう、記事
の中から選びここに記入し
ます。」

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は370文字から500文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

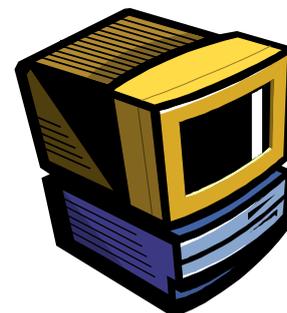
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製

品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。

ニュースレターに載せる記事は、そのままホームページにすることもできます。Microsoft Publisher には、ニュースレターをホームページに簡単に変換する機能が用意されています。ニュースレターを作成したら、ホームページに変換して



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。

「印象に残るような文章を
読者の目を引くよう、記事
の中から選びここに記入し
ます。」

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。



図や写真の説明を記入します。



黒沢尻東小学校創立50周年記念事業広報誌

ビジネス 1 の住所

住所 2 行目

電話 : 00 (5555) 5555

Fax : 00 (5555) 5555

Email : xyz@microsoft.com

ここには会社の業務内容、モットー、社歴などについて紹介する文章を記入します。取り扱っている製品やサービスのリスト、主催するイベントのリスト、支店の所在地、これまで取り引きがあった顧客や会員にどんな人がいるかなどを紹介するのもよいでしょう。

問い合わせを受け付ける電話番号を明記しておくことで読者が会社についてもっと詳しく知りたいときどこに問い合わせたらよいかすぐに分かるので便利です。

ホームページもご覧ください。
example.microsoft.com

キャッチ コピーを入力します



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は370文字から500文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。